

平成20年度タウンミーティング(きゅりあん)議事録

- 開催日時 平成20年7月2日(水)午後6時30分～8時30分
- 開催場所 きゅりあん小ホール
- 開会 出席者14名(出席申込者14名)の出席をもってタウンミーティングに入る。

<あいさつ>

- 司会(広報広聴課長)・区長・本間副区長・福田企画部長
- 司会
それではこれからタウンミーティングを始めさせていただきたいと思います。

Part 1

Aさん

私は現在、NPO大井まちづくりという、地元商店街、町会、企業の代表からなる組織で魅力ある大井づくりを考える取り組みをしています。大井町阪急が老朽化から立替ということで2年半ほど休業しています。そして、大井町駅はりんかい線の運行や東急大井町線の急行運転の開始などで、3万人の乗降客があるというお話を聞いています。3万人いる中で、大井駅に降り、まちへ行って食事やショッピングをする方々が何人いるのかということもNPOでは非常に危惧しており、阪急の建て直しにあたって、乗降客の1人でも多くの方が大井町駅に立ち寄っていただくために、隣の大崎駅のようにデッキをつけていただくと非常に近代的な駅に変身し、とても発展をしているように見えます。ですから、大井町でも、阪急再開をチャンスと捉えて、何かいい方法を考えていただけたらと思ひまして、地元大井町の住民としてお願いするところです。

Bさん

これからの日本や地域社会を支える学生達との産学の交流実績とそこに官が絡むことによる可能性について質問します。私は、東京中小企業家同友会品川支部で産学交流委員長をしています。そして、産学の連携先は立正大学経営学部で、23年前、大学と経営者の間で、これから起業家を育てていきたいということで交流が始まり、13年前から立正大学経営学部の正規講座13コマを我々経営者が企画運営し、学生の学びを支援しています。その方法として、我々中小企業家が現場の経営そのものを生で伝える中から彼らが知識で得た部分と感性の中で融合させた形で将来に向かっていただきたいということでやっています。

これからの可能性として、立正大は交通の便の良い品川にありますが、区との政策の中で将来を展望し、交通の便がいいということは起業をしやすいことにもなりますので、それにつなげていきたい。学生達は大企業志向なのですが、中小企業、松下電機でも最初は中小企業ですから、気概を持って、そして、日本の国家及び産業界を支えていく次の世代につなげていきたいと思っています。

Cさん

八潮から参りました。国際都市品川における在住外国人への対応ということについて、区長さんからお考えを一つよろしくお願いします。

区長の回答

区長

<大井町阪急再開をきっかけとした大井町のまちづくりについて>

大井町は、品川区の地図のど真ん中で、品川の顔だと思います。その大井町が輝くかどうかは区全体が輝くかどうかになると思います。お話のように、大井町阪急が一旦閉店し、また、再開しますが、その間、大井町阪急側は少し寂しい状態になるなど感じています。大井町については、昔、昭和

56年に「大井町駅周辺再開発基本構想」を作りまして、例えばきゅりあんやイトーヨーカドー、かんべK-1ビルがその成果ですが、その後、例えば大井町駅東口の東小路、立会道路と区役所通りとの間とか、まだ再開発をしていませんが周辺の様相も変わってきましたので、昭和56年策定の基本構想のようなものが必要になってくるのではと思っていて、NPOの皆さんなどとも色々意見を交換しながら、今後の大井町のまちづくりを考えていきたいと思っています。

その際に、お話にもありましたように色々な人、特に若い人が大井町へ行ってみようというようにまちにしていきたいと思っています。大井町のどこというわけではありませんが、集客力のある施設があればいいなと思っています。そういう機会を探っています。先ほどおっしゃったような大崎をモデルにした、あれは都市再生ビジョンというのを作りましたけれど、そういうものを手本にしながら、景観にも十分に配慮した新しいまちのありようを探していきたいと思っています。

<産学連携について>

産学連携の話ですが、先程たまたま産業技術大学院大学の話をしたのですが、立正大学もここ2・3年、とても綿密な産官学の連携をしています。行政の役割は、産と学を結びつけるようなコーディネーター的な役割があると思いますので、そういった面で努力していきたいし、大学生や産業界にとってもメリットがあることだと思いますので、この辺はぜひ進めていきたい。あるいは、立正大学周辺は五反田の商店街との結びつきもあり、区の環境清掃事業のレジ袋に関する調査なども立正大学の学生さん達にお願いをしました。そういう意味では、区役所、商店街、産業界とのコラボレーションができてくるとあっていて、これは非常に期待ができるなと思っています。

<国際都市品川について>

国際都市品川ですから、区内の外国人の方々に対する配慮はこれからますます必要になってくると思います。1月1日現在で1万1,501人の外国人の方が在住しています。5年前と比べて2,000人程増えており、品川区は交通の要衝あるいは国際都市ということで色々な方が集まってこられていると感じます。そういった方々が区内で暮らしていけるように外国語による生活情報誌の発行や外国人の生活相談なども区役所では実施しています。それから、FM放送にて5カ国語で区のおしらせを流しています。品川インフォという番組でインターFM局にチューナーを合わせると聞けます。

外国の方が1万1,000人以上いらっしゃるわけですから、外国の方にも区政モニターなどに参加していただくのも一つの手かと。色々なお考えをお聞きする場や機会に参加していただくというのもいいのかなと。これは冒頭申し上げましたように、行政サービスは区役所の中だけで考えていると、少しちぐはぐなものを提供してしまうことがありますから、実際に外国人の方が今、品川で暮らす中で何が便利で不便かをお聞きする必要があるのではないかと考えています。そういった意味でもそういう方向からもアプローチして施策を充実していきたいと思っています。

Part 2

Dさん

取り立てて目新しいことはないのですが、国も地域も会社も家庭も、夫々の立場で人材の育て方で麗しくもなれば醜くもなると思います。品川区の目指す計画もそこに住む多くの人々が優れた個性ある人材として育ていけば、より効果が得られるのではないかと。それが期待できるかと思うのですが、そうなるためには時間が必要です。人が育っていくのは膨大な時間がかかりますが、区長さんもおっしゃったとおり、かなり年齢を経た方々には中々難しいと思うのです。次代を担う世代には、これからなのでまだまだ時間があります。

現在のゆとり教育ですが、「ゆとり」の意味が「タイトな時間割をルーズに」なら、その結果どうなったか見ると若くて吸収力の盛んな興味と関心が沢山あり、頭の中に沢山詰め込める時間をすき間だらけに使われているのではないかと。結局、覚えなければならぬものを覚える、ある一定程度のものが必要なのですが、詰め込み教育という言い方をされますが、詰め込まれないうちに大きくなってしまふ。拳げ句にどうなったかという、基礎知識、基礎的な計算力、基本的な技術、例えばまり投げもろくにできないようになってしまふわけです。そして、こちらが見ていても恥ずかしくなるくらい、基礎的なことが身につけていない人が多く育ち、社会人になっています。極端な方は、今、モンスターペアレ

ソツなんて言われるような全く社会性を逸脱した表現をする様子にもなっていると思います。

品川区は、国内でも全く先進的な新しいシステムを実施した勇気ある区だと思っています。その姿勢で社会人としての本質的にゆとりのあるところをよく考えていただき、そういう人々を育成していただきたいと思っています。一定以上の知識と技術と豊かな発想力を持って、みずからをさらに習熟していけるような方法が身につくような、そういう教育の仕方を展開していただければいいのではないかと思います。我が国は資源が少なく、我が国が期待できる資源の一つが人的資源だと思うのです。せつかくですので、品川区ならではの姿勢で1人でも多くの人材を育てて、品川区がまさに人材の宝庫となるようにしていただければと思います。

Eさん

1点目は、区の貯金が614億円あると伺っています。これだけの貯金があったとすれば、私はもっと区の中であまり日が当たっていないところにその貯金を充てたらどうか、具体的には、電線の地中化やあかすの踏み切り、さらに歩道の拡幅、特に役所の前から大崎方面に行く歩道の拡幅。あの途中に大きい電柱があります。あそこで、私はいつも散歩の時に、自転車とすれ違って危ない目を毎日のように経験しています。そういった意味で、もし拡幅が非常に難しいとすれば、電柱の移設とか道路の一車線、これを何とか実現できれば快適な散歩ができるのではないかと伺います。

2つ目は、国、地方合わせて1,000兆円の借金があることから、この解消策という意味でも、私は区民と区の協働事業を積極的に推進していったらどうかと。その一つとして、地域センターの強化を図り、町会との連携しながら、区民と区の協働事業を積極的に推進していただけたらと思います。

Fさん

八潮は今、連合会長を中心として「八潮をつくる会」で色々なことを推進しています。

その中で、我々は高齢者のケアをするつもりで、ゆっくり居眠りできるような喫茶店をボランティアでやっています。それから、遊歩道を確保するために、カルガモ池を、雨水を利用して浚渫したり、いろいろやっています。

空き校舎の問題についても区役所と色々話はしていますが、あそこに2校空きますので、いわゆる介護だとか何か学校を誘致して、八潮は福祉と健康のまちづくりという、特色のある施設としていただきたいということです。

区長の回答

区長

<教育の問題について>

教育は大事だと思います。いわゆるモンスターペアレントについて、学校に乗り込んできて、自分の子供を叱ったのはけしからんとか、非常に色々なことを学校に持ち込んで、学校の先生がノイローゼになる例もあります。こういったことに対処すべく、弁護士を雇い入れようという区もあります。品川区でそういう話を先生にしたら、そんな悲しいことはしないでください、私達で何とか解決しますからとおっしゃっていました。しかし、実際に苦労されていることも確かであります。

自分さえよければとか自分のことだけしか考えないような教育はよくないことだなと思いますし、もちろんそのような大人を育てようと思って教育してきたわけではありませんが、結果として、そういう方たちがいらっしゃるといのは、教育のやり方が間違っていたのではないかと思います。

昔の人は、悪いものは悪い、やってはいけないことはいけないという、善と悪を理屈としてではなく、頭から覚え込ませることがあったのですが、現代はどうしても納得をさせながら教育をしなければいけないのが大前提ですからなかなか難しい。大人が言い負かされてしまうようなことも出てくる。なぜ人を殺してはいけないのだということを聞かれ、きちんと答えられない。それは答えられないほうがいけないのですが、してはいけないのだということを当たり前のこととして教えることも大事と思っています。

今度、品川区の小中一貫教育の中で「市民科」というのを作りました。つまり市民として、いわゆるパブリック、公の市民としての教養、ルールやマナーを身につけることで、学校の先生に一生懸命努

力していただいています。その結果例えば公共心や公德心の意識が育ってきたというような研究成果も出ていますので、これを強力に進めることで充実が図れるのではないかなと思っています。

<基金の積み立ての考え方と区と区民の協働>

区の基金現在高は614億ですが、品川区は昭和50年代初めに赤字になりました。財政の力を蓄えておかないと、あっという間に左前になってしまうということを実感しました。何をしようにもお金がかかります。多少のことがあっても、きちんとサービスが提供できるだけの蓄えが必要だということです。

ですから、これを取り崩して様々なことをしてしまうと、何かあった時に、もうお手上げという状況になります。ですから、私は、大体このくらいの金額は、何か一朝有事の時のために必要ではないかと思うのです。行政は継続性というのが求められますので、ある時からある時までにはよかったけれど、ここから先はだめですというのでは駄目なのです。今の大人の人達には行政サービスを十分に提供できても、子供達の時代になったらもうお手上げですというわけにはいきません。

おっしゃられた仕事が必要ないというわけではないので、これも息長くやっていかななくてはなりません。特に道路の拡幅は非常に難しいです。前にもご質問いただいた時のお答えは、例えばあそこの道路は新幹線と湘南新宿ライン、大井町線のガードがあって、道路の拡幅には莫大なお金がかかりますというお話を申し上げました。しかし、普通の道でも、歩道をちょっと拡幅しようと思っても、結局は、おもな仕事は用地買収です。そうすると、用地買収というのは、これはまたこれで随分お金がかかるので、なかなか進まないというのが実態です。ですから、こつこつと少しずつ買収して行って、本当に何十年かけて、やっと道路が広がるというのが実態です。ですから、これももちろん努力して続けていきますけれども、すぐにはできないということをご了解いただきたいと思います。

それから、電線の地中化のお話が出ました。これは後の方からもご質問をいただきますが、電線の地中化をするには、今、地中に埋まっているガス管、水道・下水道管、こういったものを一旦どかさなくてはいけないのです。そのままいきなり道路を掘り返して、電線を地中に埋めるということではできませんので、埋設されているものを整理して、そして新たに電線を沈めるための共同溝をつけるわけです。そうすると、ある程度道路の広さがないと電線の地中化というのは難しいのです。今、品川区では、戸越銀座の通りと、旧東海道の道も電線の地中化をやっています。最低限、あの幅がないと電線の地中化はできませんので、なかなか難しいというのも実態です。行く行くは、滝王子通り周辺も電線の地中化ができないかということで研究をしていますが、なかなかそういう一定の幅が必要だということでお金がかかります。それから、商店街に大きな迷惑がかかります。夜中にやって、昼間は人が通れるようにしますが、それにしても、商店街にすれば結構迷惑です。ですから、商店街の方に迷惑がかからないよう、しかし、夜やれば、それだけ騒音が出て今度はまちの人に迷惑がかからないようにということで、少しずつということになってしまいうことが実情です。でもしっかり進めていきたいと思っています。

それから、地域の話ですが、地域との協働は重要なテーマで、今、役所の中でも色々検討しています。その中で地域センターの果たす役割は大きいと思います。ただ、権限を移譲することでそれが進むかどうかということより、地域とのネットワークをどういうふうに構築していくかが難しいことだろうと思っています。今、庁内で企画部を中心に協働を具体的に展開していくのはどういう方法があるだろうかということを生懸命検討していますので、これはもうちょっとお時間をいただきたいと思います。

<八潮のまちづくりについて>

八潮の方々が自分達の手で公園や水辺の面倒を見ていただいたりしているのを聞いています。自分たちでまちづくりをしていこうということの意味で、八潮の方々の活動は先駆的な取り組みだと思います。そういうことをしっかり我々もよく見させていただきながら、八潮のまちづくりをこれから進めたいと思っていますし、既存の学校の施設をどういうふうに八潮のまちのために使っていったらいいのだろうかということは今、一生懸命研究していますので、もうすぐお話しできることになると思います。もう少しお時間をいただきたいと思います。

Part 3

Gさん

上大崎一丁目はちょうど山手線の目黒駅が最寄り駅です。地理的なイメージから言いますと、このきゅりあんのあたりは品川区の中心地です。それに対して目黒駅のあたりは周辺部ということになります。私の父は戦後すぐに上大崎一丁目に住み始め、もう60年たつし、私もそこで多分死ぬでしょうし、私の息子も今、隣に住んでいます。ずっと品川区に住むと思うし、私自分、世論調査で9割の方が住み続けたいと考えているという結果が出ましたけれど、私も住み続けたいと思っています。

意見の一つは、周辺部は地理的にどうしようもない状況ですが、公共サービスが手薄だといつも感じています。今、私は町会の役員もやってきましたが、色々なことを区に言っても、公共的な様々なサービス、特に公共施設、最近が高齢者の問題がとても大きいですが、そういう高齢者に対するサービスという面で、もう少し何かできないかということがよく地域で話し合っていることなのです。

以前、近くに国鉄アパートがあって、それが売り出され、残念ながら私営のマンションになったのですが、その時に、区で買ってくれないかと言ったりしたのですが、なかなかうまくいかなかったのです。今は、目黒駅から目黒通りをずっと三田のほうに来る途中に、みやこ荘という裁判所関係の宿舎がありますが、これも噂によると売りに出されているそうだと。何とか区長さんの政治手腕を生かして、国と交渉し、あそこを買い取って、公共センターのようにしていただけないかということを思っています。

上大崎一丁目は、道一つ隔てて、港区にも接しています。目黒・港そして品川区ということで、一つの考え方は、区長さん同士で交渉し、区境の住民に対しては、公共サービスを近くの別の区からも得られるというふうな形にもやれないかな。そうすると税金を、私は住民税を結構品川区に払っていますが、それも、どういうふうに配分するかとか、そういう問題にもなってくると思います。

もう一つは、今、90・80歳で両親が健在です。介護保険制度について、色々とお伺いしたいこともありましたが、時間がないので、残念ながら、ここで終わらせていただきます。

Hさん

私は平成15年の5月当時6歳の娘を国道1号線と都道26号線の交差する戸越三丁目の交差点で交通犯罪により失った交通遺族です。今回、生活ゾーンでの進入車、交通事故ゼロを実現の提言をします。ここで言う生活ゾーンは、幹線道路や高速道路といった車専用の道路ではなく、皆様方が生活するのに密着する生活道路を含めた部分をエリア化したものを示します。

我が国では8,000万台近い車が走っています。それらの車がこのような生活道路と言われる商業や文教地区、住宅地の道路に進入してきます。これらの中には無謀な運転者により、近道や抜け道として利用する者が多くいます。生活ゾーンは歩行者が中心であるべき地域であるにもかかわらず、住民の生活は乱れ、身の危険にさらされています。交通事故も多発しており、痛ましい事件も沢山あります。その犠牲者は歩くことしかできない高齢者や子供が多く、いわゆる交通弱者と言われる者です。

交通死者は年々減っているという発表が毎年出されていますが、これは多くが車による被害のもので、歩行者の被害はあまり減っていません。そういう意味で、生活ゾーンでの交通被害は減らない状態です。こういったところに何が重要かという今まで交通安全で行われているような高齢者には反射板をつけるとか、子供達に教育をするというのではなく、車に対して歯止めをしていく必要があると思います。そういう意味で、生活ゾーンでの速度は30キロ以下にすることにより安全を確保する。また、私の娘の現場にもついていますが、歩車分離式信号といって歩行者が安全に渡れるための方策を施すということ、また、ランプやクランクといった車側に速度を下げさせるためのものを設置していくことによって、歩行者のより安全を守るための道路づくりを区にも提言したいと思っています。

Iさん

前の方と同じことにはなりますが、まず、お尋ねしますが、道路法や道路に関する条例は車のためのものだということをご存じでしょうか。歩行者のためというのは、歩道のない道路、生活ゾーンでの法律は「右側通行をしましょう」たったこの1行だけです。生活ゾーンといっても、車の通る幅があって、余ったら人が歩けと。白線を引いて、白線だけで安全をと言われても…。その残った所は、道路の水をは

ける街渠、L型溝とか言われるので、滑りやすい斜めであり、段差がありで、お年寄りには向いておりません。そういうことをまず頭に入れておいていただきたいのです。

それから、電柱は生活ゾーンではある種の安全施設になっています。車は電柱にはぶつかりたくないから、歩行者に対してはよけるだろうという考えがありますので、電柱はある種の交通安全施設という考えを持っていただきたいと思います。そして、お年寄り、高齢者ですが、これはともかく歩けることが高齢者の健康のバロメータであると思います。ですから、公園、道路等の安全で安心なまちづくりを、ともかく歩くことに力点を置いてもらいたいと思います。お休み石にしてもそうです。このお休み石が今、区役所の担当の方がお休み石の意味をわかっていないので、違う利用をされて困っております。

最後に、区独自の気配りをされた歩行者に優しい気配りマニュアルというようなものを制定していただいて、ともかく道路づくりはお年寄りがつまずかないことが前提であり、前の方がおっしゃられた、歩行者、住宅街、生活ゾーンにおいては、車は遠慮していただく。そして、歩行者も譲り合って、お互いに利用するという構想を、是非品川区独自のものを発信していただきたいと思います。

区長の回答

区長

<区境の行政サービスについて>

区境の行政サービスのことで、悩ましい問題です。よく上大崎の方々からもそういうお話をいただきますし、あるいは目黒との区境である旗の台六丁目とか、大田区との区境である大井七丁目とか、どちらも閑静な住宅街、住宅地ですが、公共の施設が少ないということで色々お声を頂戴します。公共施設をつくる時に、どうしても使われる方の人数の多い所で配置が進みますので、そういう部分が出てきてしまうということは現実であり、ご不便をおかけしていると感じています。

今、具体的なご提案がありました。例えば、隣接する区と両方で施設を使えないかとか、サービスを提供し合えないかという話です。前者の、施設を両方で使うということについては比較的進みつつあります。例えば港区の方が品川区の施設を使っていただくということは可能です。調べますと、区民センターはどうも港区では使えないようです。品川区民が正面切って使おうとすると難しいということなので、これについて港区に検討をお願いしました。どういう結論になるかわかりませんが、品川区民が区民センターを使わせてもらえるようなタイアップができないかと検討をお願いしました。

もう一つ、サービスを区を越えて提供し合うというのは非常に難しいです。さっきお話になりましたように、負担の問題等がありますので、これは一朝一夕にはなかなかできないと思いますが、一つの問題提起かなと思います。その一つ手前になりますが、施設の相互利用みたいなものについては、いろいろと実現に向けて努力していきたいと思います。

みやこ荘の話が出ましたが、あれは最高裁判所所有の不動産で、最高裁判所としては売る意思はないのです。貸すか、行く行くは最高裁判所としても使用していきたいという意向があります。普通、売るとなりますと財務省に移管にするのです。例えば品川区は戸越公園の前の国文学研究資料館を購入しましたが、みやこ荘は最高裁判所がそのまま持っていますので、買うという話はこちらからはできない状況です。あそこを高齢者福祉に使えないかとか、いろいろお話は聞いていますが、現状はそういうことだということでご理解をいただきたいと思います。

<生活ゾーンでの進入車、交通事故ゼロの実現について>

お子様の事故を契機に、戸越三丁目の交差点は歩車分離ということで警察と協議し、そういう信号方式になりました。そういう意味で、事故の教訓を生かした道路行政が必要ではないかと考えます。

生活ゾーンというお話が出ましたが、平成9～11年度にかけて、旗の台一・六丁目地域でコミュニティゾーンの道路整備を行いました。これは環七を通る車が、環七が渋滞すると住宅街の洗足駅と旗の台の間を抜け道として使うことが多くあり、そういうことはさせてはいけないということで、コミュニティゾーンというのを作りましたが、実はこれは地元では大変な議論になりました。つまり、一方通行にはするけれど、今まで自分のガレージから車を出したら、右も左にも行けたのが左にしか行かなくなる。右の少しの所へ行くにも、左にずっと曲がってぐるっと回っていかなくてははいけないというようなことで、不便になるということで非常に議論になり、議会でも喧々諤々の議論がありまして、なかなか進

まなかつた事業です。この時に、そういう一方通行路にするとか、ランプという波を打つような道路にして、今、八潮にもありますが、波を打つので30キロ以上は出せないという構造にしたり、旗の台の六丁目あたりや昭和医大の脇に行きますと、目で見ると出っ張っているように見える交差点があります。目の錯覚を利用して、道路が出っ張っているという風な感覚ですから、スピードを落とすというようなことで、ゆっくり走る、しかも通り抜けができないようなコミュニティーゾーンを作りました。これは長年かけてやった仕事でして、なかなか一朝一夕にはできないことであります。

それ以来、この生活ゾーンは、ここ以外には増えていないのですが、まず、どうしても必要になってきますのは、交通管理者つまり警察の協力がなくこの仕事は全く進まないのです。現在の道路の流れは一方通行などの交通規制や信号機の調整などによって、広い範囲にわたって交通の流れを決めていますので、その一部分の流れを変えるには、交通管理者としても様々な問題を解決する必要があることから、その同意をいただくというのが大変なことで、総論は賛成、各論は反対ということで、地域のご同意をいただくというのは大変に難しい情勢です。しかし、こういったことについても可能な限り試みていきたいと思っています。ただ、実情はそうでなかなか難しいことについて一定のご理解をいただければありがたいと思います。

<人に優しい道路づくりなどについて>

道路のことです。おっしゃるように、車が歩行者は邪魔だという感覚で走ったり、歩行者は車がよけるのが当たり前だという感じで歩くのではなく、両方が譲り合えるような、特に都会の中では、譲り合って道路を使っていくという姿勢は非常に大切ではないかなと思っています。

それから、電柱のお話が出ました。電柱はむやみに地下に入れるだけが能ではないと思います。確かに私もそういう話を聞いています。電柱の陰に隠れるということが身を守る一番の方法です。だから、道路から電柱を外すのはいいのですが、より自動車が我が物顔に走るだけという話も聞いています。ただ、防災面では電柱はないほうがいいのです。電柱が倒れることにより、道路が遮断されてしまうことがありますので、電柱の地中化は大きな流れとしてはやっていきたいと思っています。ただ、電柱には電柱の現実の効用というのもありますので、その辺もちゃんと頭の中に入れておきたいと思っています。

それから、歩いている人に優しい道路ということですが、品川区では、平成20年3月に「品川区すべての人にやさしいまちづくり推進計画」を策定しました。この計画の中で安全に歩行できる道路というものについても考えていきたいと思っています。

それから、お休み石ですが、お休み石には3種類あり、歩く途中で少しお休みいただくための「くつろぎお休み石」が区内で117基あります。それから、立ちどまるスポットにある「バス停お休み石」が103基あります。それから、商店街の中でちょっとお買い物の途中で休んでいただく「商店街お休み石」が12基あります。色々な所に置きたいのですが、例えば駅前ですと人の流れが多過ぎて、かえって危ないことがあり、今のところでは、「くつろぎお休み石」と「バス停お休み石」と「商店街お休み石」ということで設置をしています。いろいろな効用、いい面、悪い面あると思いますので、検討はしていきますが、今のところ、そういう形で設置をさせていただいています。

Part 4

Jさん

自転車専用道路の設置の検討についてお伺いします。私の住んでいる東品川四丁目は、青物横丁の駅前商店街等の近くなのですが、昨今の大型オフィスビルが相当増えたということもあり、青物横丁駅前商店街の歩道は、企業従業員の増加で通勤のラッシュ時や昼食時等、人の流れが従来と大幅に変わって、人と人や人と自転車とのぶつかり等から、事実上、自転車の使用が不可能な状態です。自転車はご案内のとおり、CO2の排出も全く関係ありません。特に我々高齢者と子供達にとって、健康増進上からも今後大いに利用すべきだと考えています。地元、旧東海道品川宿ですが、景観保持あるいは商店街の活性化等の観点もあって、自転車専用道路の設置はなかなか容易なことではないのかと思いますが、中長期的な観点から、自転車利用者、歩行者双方の安全を守るために、自転車専用道路の設置についてご検討いただける余地がないものかどうかお伺いしたいと思います。

Kさん

品川区内の端から来ました。丁度私の住んでいる所の手前から150メートル歩くと4つの区-品川・港・渋谷・目黒区に面します。先程も前の方がお話しになりましたが、行政の恩恵はあるのかということを感じます。例えば、たばこなど、私は品川区で買えないのです。毎日の生活のための食品も品川区では買えません。このようなことでいいのでしょうか。

私が申し上げたいことは、道路の問題です。沢山の方がお話しになったので、ダブらないように話します。まず、1つめに、品川区として、国際都市、防災を目指していらっしゃる。そうすると、道路の電柱を地中化することによって、例えば区長はじめ皆様、海外へ行くと思いますが、日本との違いは何でしょうか。まず、電柱が多いか少ないかではないでしょうか。防災の面で区長がお話しになっていましたが、電柱はないほうがいいと思いますが、一方、バリアになるという話もなるほどと思って聞いていました。いずれにせよ、一番の問題点は、日本の道路はもともと狭い。それを拡幅するためにはどうするか。土地を買うなど不可能です。道路にある電柱をなくして、地中化することにより、少なくとも電柱の幅も入れて40センチ道路が広がります。両側に立っていますから80センチです。区内の全道路×80センチとすると、どのくらいの土地になるのでしょうか。それは買わなくて済むのではないのでしょうか。

区長の回答

区長

<自転車専用道路について>

青物横丁駅前の道路の問題です。おっしゃるように大変に人通りが激しい所です。実は平成16年3月に、これは都道なので東京都の管轄になるのですが、都の事業計画で優先整備路線だということ指定をされています。このお話がありましたので、歩行者・自転車が安心して通行できるように混雑緩和対策を図るよう、東京都にお願いしていきたいと思えます。

もう一つ、自転車の専用道路が作れないかというお話がありました。ここは自転車が通る道、歩行者が通る道、車が通る道ということで整備できれば一番いいのですが、実際には区道は幅員が大変狭くて、その3つを両立するのはなかなか難しいわけです。しかし、といて、そのままにしておいていいというものではありませんで、何とかしなければいけないと思えます。

先ほどパワーポイントでご覧いただきましたが、品川区内に住みたくない理由で、周囲の環境がよくないからというのがトップだったのですが、これは、例えば空気とか今日的な環境問題と同時にこういう道路だとか、歩きづらいとか、そういうのも含まれての環境ということなのですね。ですから、多くの区民の皆さんが道路については悩んでおられる、気にしておられるということは事実です。自転車の通れる道というのを整備してほしいという声もよくお聞きします。

品川区では、自転車の走行空間の整備の検討を始めています。どういう場所で可能であるかということで検討しています。ですから、モデル実施をする場所を検討しています。率直に言って、これを全区的に展開するのは、今の区道の規模からいって非常に難しいと思えます。ただ、モデル的に、こういうものを実施していくことも必要だと思えますので、今申し上げましたように、どこでどういうふうにやるかが可能かということを探していますので、いましばらくお時間をいただきたいと思えます。

<区境の行政サービスと電柱の地中化について>

上大崎からお越しの方のお話を承りました。上大崎の方の行政サービスは手薄だということは十分承知をしまして、何か手立てはと考えていますが、なかなか難しいということも事実であります。

電線の地中化のご提案をいただきました。先程も申しましたように、全体的な風景として、電柱は地中化していくべきだと思えます。ですから、国道・都道についてもかなり電線の地中化が進んでいます。このきゅりあんの裏側といいますでしょうか、池上通りから東品川の方へ行く道も電線の地中化が進んでいます。そういう意味では、広い道路については電線の地中化が進んでいます。

しかし、おっしゃるようにむしろ狭い道の電線の地中化の方が効果は大きいです。40センチ・40センチ、両方で80センチ広くなります。狭い道が80センチ広くなることは非常に効果が大きいわけですから、進めることは必要だと思えます。ただ、これも先程申し上げましたように、大変にお金のかかることと周辺に大きな負担を強いるということがありますので、その辺は一つ一つ、じっくりやっ

かなければならないのかなと思っています。

地中化は戸越銀座と旧東海道でやっていますが、「うるさい」「夜中、眠れない」「時間を短縮してくれ」など色々なご要望をいただきながら、それらを何とかクリアしながら進めているわけで、したがって時間のかかる仕事ですが必要だと思っていますので進めていきます。その際、必要なのは国の補助金です。とても、区の単費つまり区民税だけでこの事業はできません。とてもお金のかかる事業ですので、国からのお金を引き出し、そのお金で電線の地中化を進めていきます。国は国で全部の自治体の面倒を見ていかなければいけないわけですから、なかなかさじ加減が難しいと思いますが、しかし、国とよくかけ合って、補助金を少しでも導入して電線の地中化を進めていきたいと思っています。

Part 5

しさん

今日は、今、誰もが大規模地震や災害の恐さを危惧していることを話します。災害時に住民の人的被害や経済被害の軽減を図ることは、地域の防災指導、教育、訓練が非常に重要になってくると思っています。具体的には、地域住民100人に対して1人くらいのリーダーが必要と思いますが、支援コーディネーターといえますでしょうか、品川区ではもう既に誕生していると聞いていますが、どうも顔が見えてこないというところがあります。そういうところは、リーダーがネットワークされているともっと安心できるなと思います。そのためにも、地域が主体性を持って行政と継続して検討し、確かな基盤づくりをしていかなければいけないと考えています。

私の住む東品川一帯は、マンションが林立しており、東品川だけで9,000人、15歳未満が1,000人、65歳以上も1,000人以上いると言われています。品川区の中でも最も人口の多い地区だと思えます。さらに、企業に勤める昼間人口を入れると軽く1万人は超えてしまいます。

昨年の4月に策定された品川区国民保護計画は、組織と体制などが地区ごとに理路整然と策定されて大変わかりやすいものです。また、昨年の品川区防災会議報告書には災害に強い都市づくりと明記されて、心強く思っています。しかし、実際の訓練が少ないのではないかなと非常に不安感があります。防災報告書に基づき、地域が一体となって、専門家とともに事前対策の実践をモデル事業として行くことに意味があるのではないかと考えていますので、今後もよろしくお願いします。

Mさん

私は、防災活動において、区のやることの限界がどうしても見えてきてしまうと感じています。自分のまちは自分で守る、自分の財産は自分で守る。ただ、自分のことだけ考えていたら、多分死んでしまうという、向こう三軒両隣ですかそういうものを組織できるのだろうかと考えています。

もう一つは昼間人口です。向こう三軒両隣は住んでいる方ですが、昼間区民は顔が見えないということがあり、どうやったら、この地域は第一地域センターの部分だとか、そういう広いエリアではなくて、もっと狭いエリアで、例えばバケツリレーで消せる位のエリアで組織ができると本当は一番いいのではないかと。何となく思っているのがその地域でビビッドな団体や人を探せということです。どうやって探すかはまだわかりません。わからないけれどそういうことをまず心がけて何か探せないかと思っています。たまたま地域猫ということで主体になってやっているものがありまして、要はビビッドな人達というのは、エゴイスティックではなく極めてそういう一生懸命やっている人、まち猫事業そのものは猫好きのための事業ではなくて、猫嫌いのための事業なのです。区民とは何かみたいなものが根底にどうもありそうで、例えばそういうものがあるならば、そういうものとオーバーラップして、それを利用して、新たな防災の組織化に向けていく。それから、そういうアイデア、皆さんがコミュニティをつくるアイデアをどんどん出していただいて、モデル地区みたいな話をやってみるのも一つの手で、そういうものが一つ、二つ増えてくると、徐々に広がっていくのではないかなと思います。

Nさん

品川には40の公立保育園、私立が8園、認証保育は11園などの子育て施設があり、これら施設の耐震化が始まります。私は今、私立保育園の代表理事をやっています、今回は私立保育園の耐

震対策への区としての耐震診断・対策の助成制度をお願いしたいと思います。

当保育園は鹿島神社の前で、池上通りに面しています。昭和25年に設立し、再来年は60周年を迎えます。現在、産休明け保育を6歳まで、76名の子供達がいいます。一番の心配は先程申し上げた保育園施設の耐震対策です。築47年の鉄筋コンクリートづくり5階建ての1階に保育園があり、343平米あります。上部には共同住宅40世帯があって、耐震診断・対策が単独ではできず、管理組合の合意も前提です。最近、中国の四川省や宮城県の地震が相次ぎ、保護者からも保育園の耐震はどうなっているのか、職員達は昼間だった大変、夜だったらいいのに、そんな心配の声も上がっています。

一つは、マンションとの合同でしなければならない問題、もう一つは、現建物の状況です。専門家に伺うと、耐震診断・対策は一体のもので、耐震診断をやる際も、耐震化をしなければならない。大ざっぱに見積もっても1億円かかるし、柱を入れれば現面積も確保できるかどうかわかりません。建てかえか別の施設の確保、これも検討すべきだとアドバイスもいただいています。最近、国も民間保育所の児童安全確保のために耐震化整備の補助金制度もでき、都もマンション耐震化の支援制度が実施されますが、しかし、希望すればできるものではありません。子供の命にかかわることですから、区立保育園はもちろんのこと、私立も含めた全ての保育園の耐震化を図っていただきたいのです。耐震診断を無料で行い、対策も、保育園ができるような財政支援をお願いします。当面の対策として、10秒で予知可能な緊急地震速報の設置。いずれにしても、園として大事な子供たちを預かっているわけですから、施設の検討委員会を立ち上げ、大阪などの資料も取り寄せ、園を挙げて検討を始めています。

区長の回答

区長

<防災について>

区では、「わが家の防災ハンドブック」というのを今春に全戸配布しました。ここにも色々書いてありますが、キーは町会です。今日も町会長の皆さんが多くお見えですが、町会が防災のことについて一番熱心に活動されています。町会もそうですが、町会を母体として例えばミニポンプ隊という可搬ポンプが185隊、区民消火隊が68隊あります。それから、防災区民組織が200組織あります。

ところが、意外と区民の方々はご存じないのです。町会そのものについても、関心の非常に強い方もいれば薄い方もいらっしゃる。町会を母体とする防災協議会が年に1回、各地域の学校で防災訓練をやっていますが、お集まりいただく人は一部の方です。ですから、ぜひ今日を契機に地域の町会と自治会がどんなことをやっているのか、どういう人がどんな活動をしているのかということに関心を持っていただければありがたいと思います。そして、避難所生活に入りますと、どうしても全ての避難所に区職員が行き、色々なことをご手配申し上げるのは殆ど難しいわけありますから、そうすると、自分たちの手で避難所生活を運営していく。その母体も町会が一つ大きな支えになるのではないかと思います。そういう意味で、是非今日お越しの方々は町会の防災活動ということに少し注目をしていただき、よし、ひとつ手伝ってやろうじゃないかのご参加いただくと大変にありがたいと思います。

このハンドブックはぜひごらんいただきたいと思います。各地域別に何が重要なのかとか、消火のことだとか、協力し合うやり方だとか触れていますので、ご説明する時間がありませんから、ご覧いただければと思います。

それから、上大崎のことで、少し失念しましたが、今、第三日野小学校の改築をやっていますが、第三日野小学校に今、体育館があります。この体育館を区民の地域の方々にお使いをいただけないかということで教育委員会のほうで検討しています。要するに、学校の施設ですが、これを区民の方々に開放してお使いいただくような方策を考えていますので、またそれも少しある程度煮詰まりましたら、地域にお話をさせていただきたいと思います。

防災リーダーの話が出ました。昨年度から町会の防災に関心のある方々に防災リーダーの研修を受けていただいています。そういった方々が地域でリーダー的なことで活躍していただければいいなと思います。また、災害が起きた時自力で避難をすることができない方々を避難所までお連れするとか避難のお手伝いをするため、「災害時要援護者避難誘導ワークショップ」をやっています。ぜひそういうところにもご参加いただければありがたいと思います。

<防災について>

最後の質問、保育園の耐震です。区としましては、このお話は、大きなマンションというお話と、そのマンションの中にある保育園というお話、それが重なったケースのお話だと思います。マンションについては、耐震診断の支援をするということで、品川区としてはそれを実施しています。マンションの耐震の工事とか、建てかえというところまで区として助成するのは難しい。とてもそれだけの財政的なバックアップがあるわけではありませんので、マンションそのものはそれぞれの皆様方の財産なわけですので、耐震診断の助成はしてまいります。そこから先は管理組合としてご努力いただいて、マンションの安心・安全化を図っていただきたいと思います。

一方で、保育園のケースです。保育園には、耐震化工事の一定の助成制度があります。ご存じかと思いますが、国が2分の1、区が4分の1を負担し、例えば定員70人の施設で試算した場合国の基準額約3600万円上限の補助金が出ます。保育園部分の改修にはこの補助金を使っただけになります。先程申しましたように、マンション全体としては、それぞれのマンションの所有者の方々のご努力をお願いをしたいなと思っております。

子供たちの施設ですが、そういう子供たちの施設だということでの、先ほど申し上げましたような助成制度がありますので、ぜひお使いをいただきたいと思います。

全体の総括

区長

今日は本当に貴重な時間を割き、ここにお集まりいただきましてありがとうございました。

区民の皆さん、地域の皆さんから色々な声をいただきました。できること、できないこと、難しいこと、すぐ取りかかれることがあります。精いっぱい努力を続けていきたいと思っています。多分、質問者の方々は2分半という短い時間で、あれもこれも言いたいけれど、一つしか言えなかった、答えも十分でなかったということで、フラストレーションが溜まっておられるかもしれませんが、どうかお許しをいただきたいと思います。このタウンミーティングはこれからもずっと続けていきますので、またの機会ということでご発言いただければありがたいと思います。また、会場に来ていただき、お聞きいただきました方々に、こういう考えやこういうこともあるのか、こういうことに気づいてほしいなということもあると思います。そういった意味で、またこうした場にお出かけいただきまして、それぞれのお立場から働きかけを強めていただければ大変にありがたいと思います。特に最後、申し上げましたけれども、区内にはさまざまなNPO、ボランティア団体、地域団体など様々な団体があります。私はその中で町会というのが一番基本的な地域の団体ではないかと思っていて、実際に色々な面での相互の助け合いというのもこういうところを通して行われるケースが非常に多いです。ぜひ町会というものに目を向けていただき、活動に参加していただく。それが一つの協働ということの場面でもあろうかと思っています。ぜひ心の隅のほうに置いていただければ大変にありがたいと思います。ほんとうにきょうはどうもありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

● 閉会

以上により全ての質疑応答等を終了し、午後8時30分に閉会した。

以上